

児童全員に「豆腐（月見の宴）」を配布 ～古来の風習にちなみ、ことして14年目～

市内の豆腐製造業者の（有）富塚商事が、自社で製造した豆腐「月見の宴（通称：十五夜豆腐）」を、市内小学校の児童全員（計13校、7,168人）に配布します。

「中秋の名月に豆腐（大豆）を供えた」という古来の風習にちなんで行われる同社の豆腐の配布は、代表取締役・富塚政和氏の「四季折々に行われる風習を大切にしながら、食べ物の本当の味わいを覚えて欲しい」という思いから始まったもので、ことして14年目となります。

なお、同社は、10月1日（木）に市立有鹿小学校（小宮洋子校長・児童数558人）を訪れ、体育館で5年1組の児童一人一人に豆腐を手渡します。

◇日時 10月1日（木）午後1時50分～（15分程度）

◇場所 市立有鹿小学校（河原口3-13-1）
体育館

◇その他 当日は、市長・教育長も同席予定です。



▲昨年の様子

（有）富塚商事（今里3-1-1）

代表取締役 とみづかまさかず 富塚政和氏

（70歳。国分寺台在住）。

同社は、毎年1月には、市内中学校3年生全員の新たな旅立ちに向けて、願いがかなうようにと、「合格祈願豆腐」の配布も行っています。

◎この件に関するお問い合わせ

海老名市教育部就学支援課 電話046・235・4921

